

出羽商工会景況調査報告

[調査要領]

調査対象 : 出羽商工会地域の企業 100社 (製造業 24、建設業 24、小売業 26、サービス業 26)
 調査時点 : 令和5年6月(1期)・9月(2期) ※1期(4-6月) 2期(7-9月)、3期(10-12月)、4期(1-3月)
 調査方法 : 企業へ調査表記入依頼及びヒアリング

※D. Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で以下により算出しており、将来の景気の方角性を値で表している。

D. I. = 【各項目の増加(上昇・好転)企業割合(%)】 - 【各項目の減少(低下・悪化)企業割合(%)】

【全体】

- ・コロナの5類移行により前期である第4期からは持ち直しているものの、前期と比較し、第1期は-12.6P、第2期は-18.2Pと総じて下落傾向にある。
- ・今後の世界情勢の動向、物価高や、円安など、中小企業の先行きへの警戒感は続いている。

【製造業】

- ・第1期は-4.5Pまで回復し持ち直しの傾向が見られた。
- ・一転、第2期は原材料価格の上昇、円安傾向などを背景に-17.4Pと下落した。

【建設業】

- ・前年同月期と比較し第1期-16.6Pで若干持ち直したものの、第2期-28.5Pと下落、景況感は下降傾向にある。
- ・第2期-28.5Pは直近3年間で2番目に低いDI値であり資材高騰の厳しい環境が伺える。

【小売業】

- ・前年同月期と比較し第1期は-35.3Pから-14.3Pへ若干上昇傾向にあり、回復への期待感が伺えた。
- ・第2期は前年同期と比較し+2.4P回復の傾向が見られた。

【サービス業】

- ・第1期は前年同期が直近3年間で最もDI値が高く、今期は-16.7Pにとどまった。
- ・第2期は、全業種の中で唯一DI値が上昇し、夏場の観光客等増加の好影響によるものと推測される。

6月調査 前期(1月-3月)と比べて今期(4月-6月)の業況は						9月調査 前期(4月-6月)と比べて今期(7月-9月)の業況は					
区分	製造業	建設業	小売業	サービス	全体	区分	製造業	建設業	小売業	サービス	全体
好転A	18.2	5.6	23.8	8.3	18.4	好転A	8.7	4.8	26.3	8.3	12.5
不変B	59.1	72.2	38.1	66.7	50.6	不変B	65.2	61.9	31.6	70.8	56.8
悪化C	22.7	22.2	38.1	25.0	31.0	悪化C	26.1	33.3	42.1	20.8	30.7
DI (A-C)	-4.5	-16.6	-14.3	-16.7	-12.6	DI (A-C)	-17.4	-28.5	-15.8	-12.5	-18.2

景況判断「DI」全業種及び業種ごとの推移

